

冠婚葬祭とメディア

はじめに

山田 慎也

第3期のプロジェクト「冠婚葬祭と情報化に関する研究」では、情報化という観点から冠婚葬祭の変遷について3年にわたり検討を行ってきた。新型コロナウイルス感染症の流行により、インターネット上のリモート結婚式や葬儀、法要などのデジタル情報技術の利用が試みられたが、冠婚葬祭を取り巻く状況はこれに留まらず、インターネットを利用した故人の紹介や追悼、契約や企画販売、また儀礼知識の情報流通などによって、情報化は歴史的にも冠婚葬祭に多大な影響を与えていることが明らかになった。

これらの成果を踏まえ、さらに検討が必要なのは冠婚葬祭におけるメディアの役割である。人々が冠婚葬祭を実践し受け継いでいくなかでメディアの役割は大きく、また社会の変化によってそのメディアの有り様も変化している。個人化が進む現代社会において、どのようなメディアを通して、どのような冠婚葬祭が人々の中で受容され、実践されていくのかは重要な課題である。

さらには、人々のつながりを作るためのメディアとしての冠婚葬祭自体が現在大きく変質しているともいえる。こうした人々の紐帯をつくりだすためのメディアとしての儀礼文化の検討も歴史的展開を踏まえ必要となっている。

そこで今回は冠婚葬祭とメディアの関係を通して、冠婚葬祭を通して人々が紐帯を作り出す様相も含めてその歴史的経緯を検討し、今後の儀礼文化の展開を3年にわたり検討するものである。そして今年度はプロジェクトの第1年目であり、それぞれ興味深い課題が見いだされ、その多様な状況が明らかとなった。